



[果樹部門]

[農業研究所ホームページへ](#)

11. ブドウ「マスカットジパング」に適した果房管理方法

[要約]

ガラス室栽培の「マスカットジパング」では、大房過ぎると自重で果粒がつぶれることがあるため、適度な房づくりには、穂軸長を7 cmとし、果粒数を果粒肥大に応じて35～40粒に調整することが望ましい。

[担当] 岡山県農林水産総合センター農業研究所 果樹研究室

[連絡先] 電話 086-955-0276

[分類] 技術

[背景・ねらい]

「マスカットジパング」は、岡山県内で育成された黄緑色系品種であり、大粒で皮ごと食べることができる。しかし、本品種に適した栽培方法は確立されておらず、果房管理方法も明らかになっていない。また、本品種は裂果を生じやすい特性があり、大房過ぎると出荷の際に自重で果粒がつぶれることがあるため、過度な大房生産は好ましくない。そこで、出荷に適する5 kgコンテナ箱7房詰め規格、715～834 gの果房生産に適した穂軸長及び着粒数について検討する。

[成果の内容・特徴]

1. 穂軸長が6 cmでは、年によっては裂皮及び裂果を生じやすい。裂果を回避するために粒数を少なくすると果房中が715 gに満たない場合がある（表1、図1）。
2. 穂軸長が7 cmでは、6 cmの場合に比べて裂皮及び裂果の発生が少ない（表1、図1）。
3. 穂軸長が7 cmでは、果粒重が20 g未満の場合は肩部及び胴部の隙間を少なくするために、1果房当たり40粒程度必要である。しかし、果粒重が20 g以上の場合は35粒程度で良い（表1、図1）。
4. 穂軸長の違いは果粒重及び糖度には大きく影響しない（表1）。

[成果の活用面・留意点]

1. 本試験は、所内ガラス室において開花1週間前から開花2週間後まで18℃加温、25℃換気、その後は側窓を開放し、無袋で栽培した結果である。なお、満開期の無核化・肥大処理はジベレリン25ppm＋フルメット5ppm、満開10～15日後の肥大処理はジベレリン25ppmで実施し、収穫は果粒軟化9週間後に行った。
2. 穂軸長を7 cmとするためには、開花始期に花穂先端を約3.5 cmに調整すると良い。
3. 本品種は花穂先端に花蕾が多く着生し、結実も良い。また、小果梗が短く、結実後の早い時期から果粒が密着しやすいため、満開期の無核化・肥大処理後速やかに摘粒を行う。
4. 縮果症及び日射症が発生することがあるため、ハウス外周部の日差しの強い位置にはできるだけ着果を避けるか、着果させる場合は笠掛け等の対策を行う。
5. 本試験では、5 kgコンテナ箱7房詰め（715～834 g）を目標とした果房管理とした。



[具体的データ]

表1 穂軸長及び着粒数の違いが「マスカットジパング」の果実品質、障害果(裂皮及び裂果)の発生及び房形に及ぼす影響

年次	処理区	果房重 (g)	果粒重 (g)	糖度 (° Brix)	裂皮 発生率 (%)	裂果 発生率 (%)	穴空き粒数 ^z	
	穂軸長-粒数						肩部 (粒)	胴部 (粒)
2021年	6cm-35粒	668	18.8	16.2	7.1	4.0	1.5	0.5
	6cm-40粒	768	18.1	16.3	15.0	10.1	1.1	0.6
	7cm-35粒	688	18.9	16.4	0	1.8	3.0	1.7
	7cm-40粒	831	19.9	16.4	0	7.9	1.8	0.7
2022年	6cm-35粒	766	21.1	16.1	0	4.7	0.5	0.7
	6cm-40粒	850	21.0	16.0	0	7.5	0.1	0.5
	7cm-35粒	764	21.5	16.3	0	3.3	0.9	1.6
	7cm-40粒	877	21.4	16.2	0	3.0	0.5	0.5
年次の 平均	2021年	739	18.9	16.3	5.5	5.9	1.9	0.9
	2022年	814	21.3	16.2	0	4.6	0.5	0.8
処理区の 平均	6cm-35粒	717 ^c ^x	20.0 ^b	16.1	3.6	4.4 ^b	1.0 ^b	0.6 ^b
	6cm-40粒	809 ^b	19.6 ^b	16.2	7.5	8.8 ^a	0.6 ^b	0.5 ^b
	7cm-35粒	726 ^c	20.2 ^{ab}	16.3	0	2.5 ^b	1.9 ^a	1.7 ^a
	7cm-40粒	854 ^a	20.6 ^a	16.3	0	5.4 ^{ab}	1.1 ^b	0.6 ^b
分散分析 ^y	年次	**	**	ns	*	ns	**	ns
	処理区	**	**	ns	ns	**	**	**
	交互作用	ns	*	ns	ns	ns	*	ns

^z 肩部、胴部に生じた隙間の程度を、周囲の果粒の大きさをもとに達観で評価

^y 分散分析により、**は1%水準、*は5%水準で有意差あり、nsは5%水準で有意差なし

^x 表中の異なる英文字間に5%水準で有意差あり(Tukey-Kramer法)

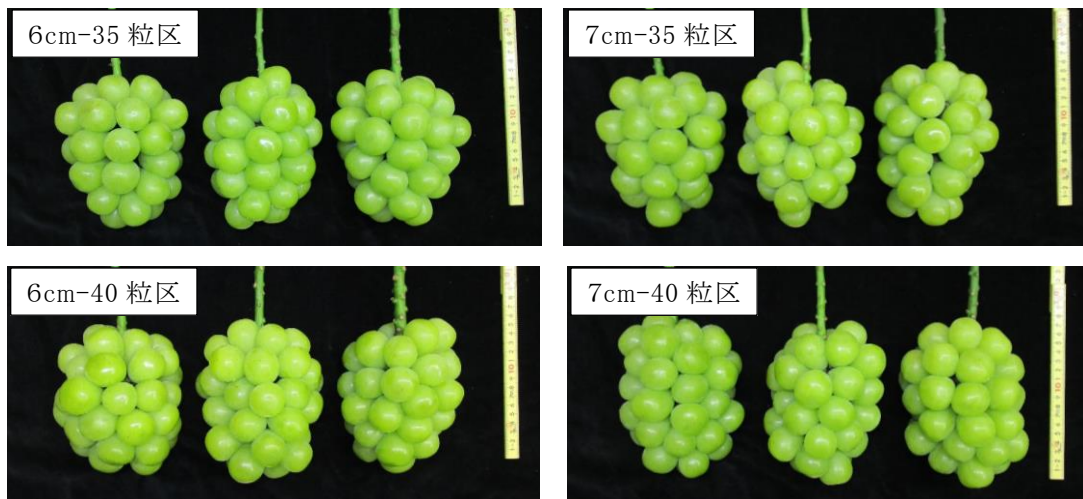


図1 各処理区の収穫果房の様子

[その他]

研究課題名：ブドウ新品種の安定生産技術の確立

予算区分・研究期間：県単・令2～6年度

研究担当者：荒木有朋、渡辺真帆、中島譲、安井淑彦、中津有紀子、久保田朗晴

関連情報等：1) 試験研究主要成果、[令3 \(27-28\)](#)、[令4 \(47-48、49-50\)](#)